

伊豆楽校「3,4年生ジオ教室」～ 見て 体験して 楽しく学ぶジオ教室 ～

(文責 伊豆市学校教育課 指導主事 矢田吉子)

伊豆市学校教育課では、夏休みを利用して、「学ぶ楽しさ(体験を通して知る、わかる、できる楽しさ)」を体感し、子どもたちの個性や興味を伸ばすきっかけとすることを目的に「伊豆楽校」を開校しています。その講座の一つとして、自分たちの生まれ育った伊豆半島の成り立ちを少しでも理解してほしいという願いから、美しい伊豆創造センター・ジオパーク推進部及び伊豆半島ジオガイド協会協力のもと、8月7日(月)に「3,4年生ジオ教室」を実施しました。

子どもたちは、地球の内部の仕組みや火山のでき方、噴火についての映像を見ながら説明を受けた後、お麩を火山灰に見立てた噴火実験を一人一人行いました。(写真右)

ポンプを踏むと、火山模型の頂上からお麩が勢よく噴き出し、扇風機の風に乗って遠くまで運ばれていきました。お麩がよく見えるように下には黒い紙が敷かれているので観察がしやすく、「大きな塊は近くに落ちているよ。細かい粒は風に乗って遠くへと飛んで行っているね。」「風の吹く方向や強さで、お麩が飛んでいく方向や距離が違ってくるね。」と違いに気づいた子供もいました。



次に行ったチョコレート噴火実験では、火山の溶岩の流れ方やその形を甘食の火山とチョコレートの溶岩で確かめました。(写真左)参加児童それぞれが、2種類の硬さの異なる溶かしたチョコレートを、火山に見立てた甘食に垂らしました。その流れ方や冷えてできた形をじっと観察する真剣な表情が印象的でした。

「火山の噴火で大陸ができたこと、噴火の仕方や溶岩は石になることがわかりました。」「溶岩が固まった石を実際に見たり、溶岩のさらさらとどろどろの違いを、お菓子を使った実験で確かめたりして楽しく学びました。」等の感想から、ジオや伊豆半島のことについての知識が深まり、関心が高まったことがわかりました。

講師の先生方の工夫により、小学校3,4年生でも火山の成り立ちを理解することができる、楽しくて分かりやすいジオ教室を開催することができました。

伊豆市立天城中学校 天城学習

自然体験などに当センターやジオガイドが携わっている、天城中学校の総合学習「天城学習」の全校発表会が11月10日に行われました。1年生で体験した旭滝や船原のスコリア丘などの伊豆の自然、2年生で行った職場体験などの地域の魅力を基に、天城を盛り上げるためにはどんなことができるか、3年生は課題を持って訪れた京都との比較を用いて発表を行いました。観光客誘致の策を考案したグループや、移住者・住民の住みやすさ向上の大切さを投げかけたグループなど、これからの地域の担い手づくりとなる場となっていました。



熱海市立桃山小学校 温泉のひみつ



総合学習で、3年生が熱海の温泉について学びました。熱海に来る観光客に児童がインタビューし、人々はなぜ熱海を訪れるのか、なぜ温泉があるのか、温泉とはいったい何なのかという疑問に、地元のジオガイドが答えました。児童たちからは、「地球が温めたものだからパワーがある」、「熱海は特別な場所なんだ」といった感想が聞かれました。

※ジオ学習無償派遣制度をご利用いただきました。

「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」を初開催

11月12日に、「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」を開催しました。松崎高校や修善寺の親子カフェを立ち上げた会社など、6つの学校・団体が、日頃の活動や実施した事業に関する困りごとや改善点を発表し、今後の活動の発展を目標に、メンターと呼ばれる伴走者や他の発表者と交流を行いました。メンターには、沼津信用金庫様やサントムーン柿田川様など、経験豊富な地域で活躍する事業者の方をお招きし、活動をより良くしていくことにヒントを出していただくなど、それぞれの活動をより活性化させる場となりました。



《編集後記》

本文にもある通り、11月に新たな試みである「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」を開催しました。社会人・大学生・高校生が一堂に会して取り組みを発表し、お互いの課題やアイデアを共有して活かしていくという、ユース世代の地域参画の面でもとてもチャレンジングな試みとなりました。実際に事業者の方から事業化の提案等も挙がり、発表者の皆さんからも好評の声を頂戴しました。またよりブラッシュアップした形で発表者を募って開催したいと思いますので、その際は奮ってご応募ください。

(事務局 杉森)